



小久保 照枝 議員 公明党

問 福祉避難所にストーマ保管を

答 実施に向け検討していく

問 市内※1 ストーマ装具使用者の人数は。

答 健康福祉部長 105人。

問 ストーマ装具を事前に保管する仕組みを整備する考えは。

答 先進自治体と同様であれば事前保管は可能。今後実施に向け検討。

問 個別支援物品の事前登録、保管制度の導入を検討する考えは。

答 対応することは困難。原則、自助の範囲で対応を勧める。

問 地域の薬局や医療機関、メーカーとの連携による物資確保や配送支援の仕組みは。

答 ストーマ装具に特化した市内の取扱店に打診し、災害時の供給体制を構築していく。

※1 排泄物を溜めるパウチ袋と皮膚に貼る面板からなる専用のケア用品。

問 福祉避難所の機能強化と制度整備は。

答 市長 災害時において※2オストメイトはじめ、障がい者医療ケアを必要とする要支援者が安心して避難できる体制の構築は、本市の重要な使命であると考えている。

※2 病気や事故が原因で、腹部に「ストーマ（人工肛門、人工膀胱）」という排泄のための穴を造設した人のこと。

取り外した状態

取り付けた状態



問 エンディングサポート事業を

答 事業化に向け協議を行う

問 身寄りがなく、死後の手続きに不安を抱えている人の実態を、どう把握しているか。

答 健康福祉部長 ケアマネジャー、地域包括支援センター、海部南部権利擁護センター、社会福祉協議会などで把握し、成年後見制度の活用につなげている。

問 死後事務委任契約の支援や、実務的なサポートにつなげる制度の導入は。

答 地域にあったエンディングサポート事業を検討し、国の動向も参考に事業化に向け協議していく。

問 市長の見解を。

答 市長 身寄りのない高齢者も住み慣れた地域で安心して暮らすことを目指す。

【その他の質問】
・実用性のある物価高騰対策を



▲名古屋市あんしんエンディングサポート事業